

大学名

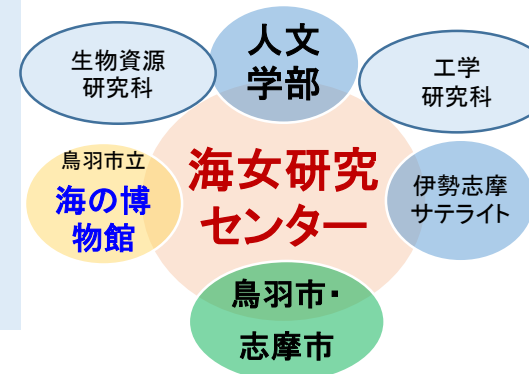
三重大学(伊勢志摩サテライト海女研究センター)

第55号テーマ
「大学と文化・芸術」

表題

伊勢志摩サテライト海女研究センターにおける
大学・博物館・行政連携に基づく海女文化を生かした研究・教育・地域貢献事業

【特色ある取組】女性の素潜り漁の伝統は、世界で日本列島と韓国済州島にしか存在しない。鳥羽・志摩は日本海女の中心地であり、その文化的価値から2017年に国の重要無形民俗文化財、2019年には日本遺産になった。女性が主役で自然に寄り添う持続可能な漁業形態は、近年海外からも注目を集めている。2018年3月に鳥羽市立海の博物館内に設置された海女研究センターでは、海女・漁村文化の研究教育活動を中心に、海女や国内外の関係諸機関と連携して、諸事業に取り組んでいる。



吉村真衣(海女研究センター助教)

漁村への日常的なフィールドワークを通し、社会的観点から文化財、観光資源としての海女や、現代漁村の生活について研究中。



鳥羽市教育委員会との連携事業。海の博物館の海女展示の解説台本を、海女さんの助言を受けつつ大学生が作成。市内の小学～高校生を対象にした事業が継続中。

塚本明(人文学部教授)

原始から現代に至る海女文化の変遷を、文献史料や絵画資料等から歴史的に跡付けた。



鳥羽市農水商工課との連携事業。大学生が漁村の食文化を聞き取り調査し、海女さんと一緒に郷土食を調理。また海女漁獲物の海藻を用いた創作料理を提案し、市内で開催された集会で発表して好評を得た。

武山怜未、堀優香、他(人文学部3年生)

【成果・評価など】市民向けの連続講座は参加者から好評を博し、学生参加の調査事業を含め、随時新聞等で大きく取り上げられてきた。工学研究科の教員・大学院生らによる鳥羽市海女漁村の景観調査や人文学部教員・学生が実施中の志摩市の古文書調査は、両市の都市計画や文化財行政に反映される見通しである。

海女研究センターHP
<http://amakenkyucenter.rscn.mie-u.ac.jp/>